

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年7月24日
第23号

ドリプロ体験で魅力発信 中学生向け学校説明会



吹奏楽部による歓迎演奏。「かわいいだけじゃだめですか」「わたしの一番かわいいところ」などポップスを軽快なダンスで届けた。カフェテリアでは部活動体験も行った。

7月12日、中学生、保護者を対象に学校説明会が開催された。吹奏楽部による歓迎演奏に始まり、全体会では、ドリプロ紹介、留学体験報告、部活動紹介、入試・奨学金制度の説明があった。次に4つのドリプロ体験、制服試着、部活動体験があった。



↑ビジネス

「カードゲームでアイデア創造！ビジネス発想力up講座」課題を見つけ、リソースを使って解決する方法を体験。

サイエンス →

「砂の解析」石狩、銭函の砂をふるいにかけて、顕微鏡で観察。大きさを調べた。



フード「自分の健康は自分でつくろう」



医療福祉「歯科医院のお仕事体験」

「わかりやすく楽しい体験できた」中学生の感想
参加した中学生は次のような感想を残している。「吹奏楽部の演奏が上手く、楽しかった」。「全体会で発表してくれた在校生の説明、スライドが分かりやすく、素敵な先輩達だった」。「ドリプロ体験がとても良かった。先生も先輩たちも優しく丁寧に対応してくれ、学校の雰囲気をつかめた」。



双葉の郷里

新聞同好会で双葉祭を振り返る座談会を行った。

野球部が随所で盛り上げ、楽しませてくれた。オーブニングの吹奏楽部の迫力ある演奏に先生方も参加され、歌や踊りを披露してくださいました。これは学校全体が家族のような双葉高校ならではの、と感じられた。カラオケ大会に出場した一年生は「楽しく歌えた」と言う。聴衆も優しく見守ってくれる。

一日目の午前、生徒会企画で神楽を含め、様々なパフォーマンスが催されたが、演じる人を尊重し、見学する態度も良かったと思われる。ダンスや軽音楽では盛り上がり、貴重な古典芸能である神楽には敬意を払い見守った。三歳から習っているという藤井一毅くんの舞は洗練され、見る者を引きつけた。今後も若手伝承者として活躍することを願う。

クラス展示では各クラスの特徴が出る展示がなされていた。少人数のクラスも数クラスあるが、「限られた人数だからクラスが丸一つとなって準備できた」と達成感を感じている。

バザー部門ではピザ釜を耐火レンガで組み立て、400枚以上のピザを売り上げた3年3組が目をつけた。暑い中、「ずっと火の番をしていた」という部員がいる。「クラスの一体感がさらに強まった」という。

本校は強化指定部員が一定数いるので、学校祭の準備を十分できない、というケースもあるだろう。そこをクラスの団結で補い合い、当日の完成にこぎつけたと想像する。

最後にこの学校祭を企画、運営し、成功に導いた陰の功労者である生徒会執行部への感謝を忘れてはいけない。